

①2020.4.25.

あいさつ

スジャータ婦人会のみなさま、こんにちは。

山口県の誓教寺の住職、藤本晃です。

最近、戒律の勉強を始めましたので、私が気づいたことや、

面白いなあと考えたこととお話しして、一緒に勉強しようと思います。

なるべく一週間に一度、30分くらいのペースで頑張ろうと思っています。

皆さまからも、どうぞ、戒律について、他のことについて、

こういうことが知りたいとか、これはどういうことか教えてほしい、

などということがありましたら、メールなどで、ぜひ、お知らせください。

調べたり考えたりして、この場でお話しさせていただきます。

戒律の大まかな枠組み

仏教徒のグループが4種類あります。

比丘（沙弥）、比丘尼（沙弥尼）、うばそく、うばいです。

しかし、戒律の種類は、大きく分けて3種類です。

比丘の戒律、比丘尼の戒律、それと、在家信者の戒律です。

在家信者の戒は女性も男性も在家の五戒です。

自分で守ると誓います。僧侶など誰かから授けてもらうものではありません。

守るにも破るにも、誰の許しも要りません。強制もありません。

仏教の在家信者でいることに、縛りはないのです。

比丘と比丘尼、出家の戒律は、ルールです。

比丘、比丘尼になるときに、このルールを守りますと師匠に宣言します。

戒律を破ると、罰則があります。罪を告白・懺悔して謹慎するだけです。

「これはさすがにダメでしょ」という戒律違反の場合だけ、

「あなたはもう還俗してください」とクビにします。

クビになっても、在家信者として頑張ることはできます。

クビにならなくても、戒律はルールですから、自分で判断して、

「もう戒律を守れません。出家生活は無理です。還俗します」と

比丘をやめて構いません。比丘、比丘尼でいることにも、縛りはないのです。

やめて、在家信者として頑張ることもできます。

戒律って、こういう、自分で頑張るものなのです。

(おしまい)

②2020.5.2.

あいさつ

戒律を勉強して藤本晃が気づいたこと 1

戒律は自我を潰すための教え

戒律は、特に在家の戒は、守るも破るも自分の責任で自由。

出家の比丘戒、比丘尼戒も、ルールを守れないなら還俗で、

それ以外は、告白して懺悔して謹慎すれば OK。

では、戒律は緩い？

いいえ。正直かどうか、出家として最大のポイント。

釈尊の時代は、破戒をごまかしてもどうせ神通力でバレる。

しかしその後？

破戒は、他者が見ていなければ、告白・懺悔から始まるので、

自分が隠したければ隠せるかも。

でも、それでいいの？

戒律を守るも破るも自分のこと、で、けっこう自由で、

比丘は、比丘サンガのルールの中で生きることを自ら選んだ人で、

ルールを守ろうと思ったら、けっこう生き方が縛られる。

まじめなら、自由のない生き方だと分かる。

「なんでこんな生き方しなくちゃいけないの？」と考えるほど。

それは、自我を潰すためだから。

戒律は、ただのルールではなくて、ブッダの教え。

経典の教えは、理屈を教えて、修行して、無我を悟りなさい。

それだけが教えじゃなくて、出家者には、まず、

「ルールを守りなさい」。これが戒律。

この生き方をしようと思ったら、自我があつたらできない。

わがままだと、出家生活はできない。ではごまかす？

それは最悪の自我。人をだまして、自分をだますなんて。

他の戒律は、仏教の戒律ほど厳密な法律になっているものはない。

他は、戒律とは名ばかりの、ただの命令⇒服従で、奴隷を作るだけ。

仏教の戒律だけは、自我を潰して悟りに導くための、実践する教え。

仏教では、戒律も、経典と同じく、他に類を見ない真理に至る教え。(おしまい)

③2020.5.9.

あいさつ

比丘戒と比丘尼戒の違い

比丘戒が 227、比丘尼戒が 311 だから「比丘尼の方が縛りが強い」？

先に言っておきますと、「仏教の女性差別」は、初期仏教にはない。

大乘経典や大乘僧侶にはある。「女人五障」とか。世俗地域の文化が入り込む。

しかし、初期経典にも「世界で最初に悟りを開くブッダは男性だけ」とか。

これは、差別ではなく事実。事実として、男性と女性には違いがあります。

身体が違う。それゆえ、社会的役割が、少々違う。

たぶんそれだけの違い。心のはたらき方の違いは、読み取れない？

比丘戒 227 と比丘尼戒 311 を比べると、身体、社会的役割の違いだと分かる。

どうして分かるかと言えば、

戒の数の違いは、比丘尼戒が比丘戒に 84 個付け加えたものではありません。

比丘戒の中のいくつかが比丘尼戒になく、その上で、84 個よりもっと、

付け加えられています。

たとえば、比丘戒には、立ちションしてはいけません、がありますが、

それは比丘尼戒にはありません。と思います。

これは、男女の身体の構造の違いによるもの。

一方、比丘尼戒には、三つの衣以外に、その下に腰布を巻いていいです、

という戒があります。

これは、身体の構造の違いだけでなく、当時のインド社会の風俗によるもの。

その他、比べてみると、どちらかにあつて他方ないものがけっこうある。

これは、身体でも社会的役割でもなく、各個の比丘、比丘尼の問題。

(⇒そこから比丘の犯しがちな過ちと比丘尼の犯しがちな過ちの違い、

つまり、女性と男性の精神行動パターンの違いが読み取れる？)

これはたぶん、比丘か比丘尼のどちらかが問題行動を起こして、それゆえ、戒律を制定したのだけど、比丘か比丘尼のどちらかが起こしたので、そちらにだけ、戒律として加えたのではないか、と推測します。

↓

(次回に続く)

④2020.5.16.

あいさつ

戒律の成り立ち

成道 20 年、アーナンダ尊者が世話役になった頃から、比丘の間違いが始まり、戒律が制定されるようになった。

アーナンダ尊者が、釈尊に比丘尼出家を願い出たので、それ以後、比丘尼サンガが出現。

比丘の戒律は釈尊般涅槃までは続き、比丘尼の戒律も同様。

⇒だから、どちらかにあって他方はない戒律もあるのではないか？

仏教経典や戒律を、

「後から少しずつ作製したのではないか？」という視点ではなく、2600 年前のありのままの事実の記録と見れば、見えてくるものがいっぱいあると思います。

戒律の成り立ちは教えの成り立ちと同じ

教えは、まず、悟りという圧倒的な真実がある。

そこに至る道・方法を、なんとか言葉にして教えてあげた。それがお経。

修行者が、だんだんレベルの低いのが出家するようになって、教えを教えるだけでは自分で修行して悟ってくれなくて、生き方の基礎レベルから指導しなければいけなくなった。

それで、戒律が制定された。

それでも最低限。お釈迦様が般涅槃するまで。

お釈迦様以外の長老方も戒律を定めることができたなら、

戒律は現在まで 2 億項目くらい？

悟りまで育ててあげたいから、教えを教えた。

それだけではダメなので、戒律も定めてあげた。

しかし、教えも戒律も、仏滅まででストップ。それで充分なはず。

教えのとおり、私見を交えず、学んでみたら。

戒律のとおり、わがまま言わず、ごまかさずに、生きてみたら。

悟れますよ。

学ぶ自分次第。ブッダと教えと戒律のせいではない。(おしまい)